

総合検証訓練「SIP防災OKINAWA2025」における取り組み

社会防災研究領域 総合防災情報センター／防災情報研究部門 工藤 隼人

Point

- リアリティのある災害現場を準備し実動機関の標準システムを検証
- 合同調整所におけるシステムの活動調整機能を検証
- 離島における災害情報の集約および通信途絶対策の実証実験の実施

概要

令和7年12月21日（日）沖縄県南城市において、総合検証訓練「SIP防災OKINAWA2025」を実施した。本訓練は、SIP第3期「スマート防災ネットワークの構築」サブ課題C「災害実動機関における組織横断の情報共有・活用」において開発する実動機関が情報共有・活用を図るためのシステム群の技術検証を行った。また、各実動機関が主催する訓練では検証が困難である組織横断的な合同調整を検証するため、防災科研が主催で実施した。

検証項目は、①救助訓練 ②合同調整所訓練 ③通信途絶対策の技術実証実験 ④SOBO-WEBへのデータ連携の4つを実施した。①救助訓練では、模擬被災地域2箇所に倒壊した木造家屋を想定した訓練モジュールを複数設置し、実動機関の隊員による救出・救助・搬送を行った。各隊員は、最前線の活動支援を行うシステム「X-FACE」を携行し、位置情報や移動の軌跡の共有、音声認識を活用した現場の活動状況の共有を行った。②合同調整所訓練では、現場から入ってくる要救助者情報や活動状況を管理するシステム「SIP4D-Xedge」（令和8年1月より“Open-Xedge”に改名）を用いて、部隊配置や資機材調整等を実動機関間で活動調整しつつ対応した。

③通信途絶対策の技術実証実験では、南城市の離島で通信が途絶した状況を想定し、消防団や診療所の先生が島内の被害状況や要救助者情報を「X-FACE」で入力した。その情報は「ドローン搭載型X-ICS」にデータとして蓄積され、南城市沿岸部と離島のそれぞれから離陸させ、海上でのデータの同期を検証した（当日は天候不良のため、南城市沿岸部で海上データ同期を検証）。その後、「自動2輪搭載型X-ICS」により合同調整所までデータを運搬した。④SOBO-WEBへのデータ連携では、現場で集約された情報を「SIP4D-Xedge」から新総合防災情報システム（SOBO-WEB）への連携を検証した。

今後の展望・方向性

本訓練で得られた技術的課題や実動機関の活動調整を行うための課題を整理し、サブ課題Cの研究開発を推進する。また、今回行った総合検証訓練を基礎として、来年度以降実施する「SIP防災OKINAWA」に向けた新たな技術的検証項目を検討する。

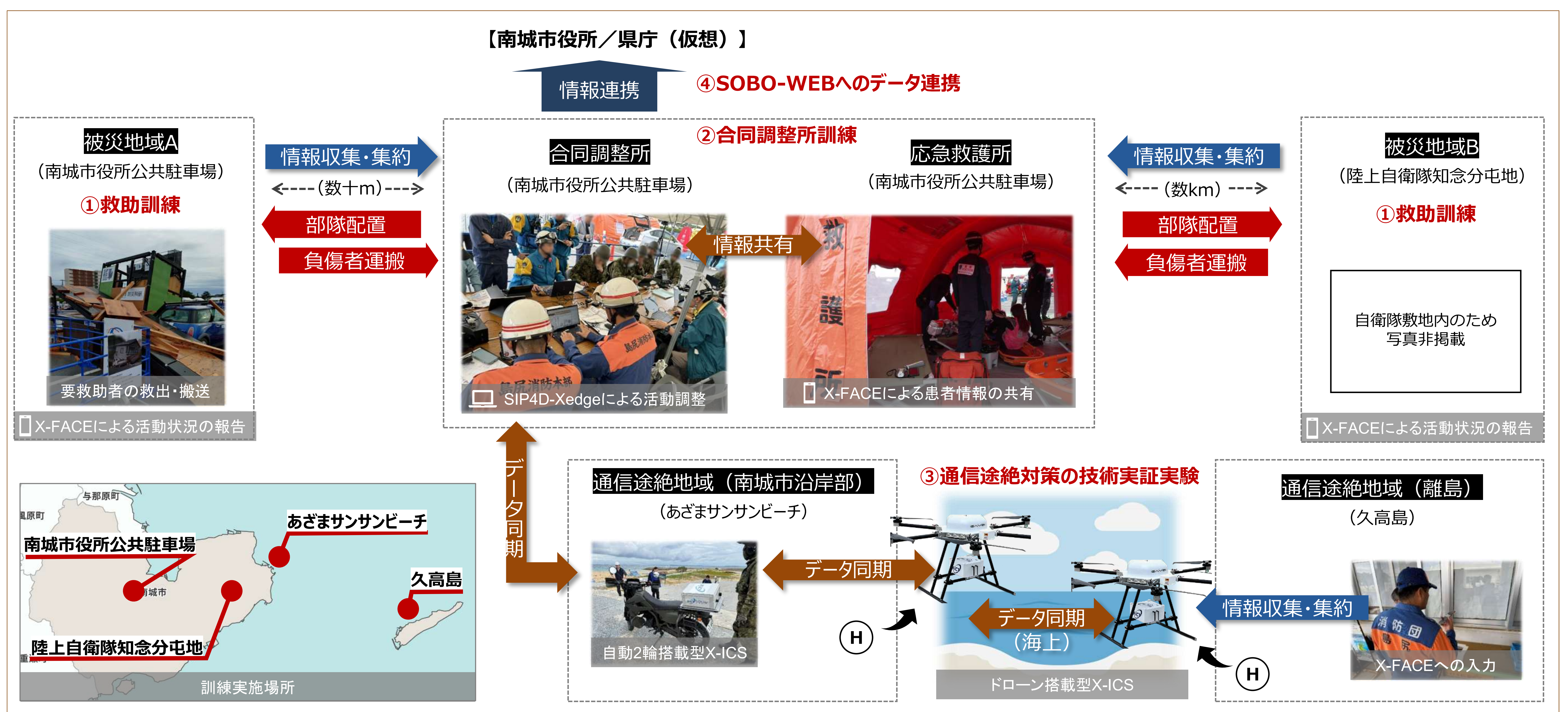


図1. 総合検証訓練「SIP防災OKINAWA2025」の検証内容

